

みちのく・むかし話

語り部 萩原淑子

2020 年 11 月 14 日収録・日本民家園 旧岩澤家住宅

「ごんげんさまのはなみず」

昔々な、あるところに、爺様とばあさまと二人仲良く暮らしてたんだと、爺様毎日山さ毎日木切りに行ってたんだと。ばあさま毎日うんめえわっぱ弁当持ってってやって作ってくれるんだと。

「行ってくるからな」

って毎日山さ登って行って、じいさま、

「んーだなあ、今日は違う山さ登ってみるか」

って途中で一生懸命違う山さ登っていったっけ。

なんだか遠くのほうに、おどうっこ（※1）が見えるんだと、

「ありゃあ、こんとな所さ、おどうっこ見える、よしいってみるべ」

っておどうっこ近づいて、中見たっけ、立派な顔したごんげんさまが胡坐かいて座っているんだと。

「ありゃあごんげんさま、ごんげんさま、いやあ、俺な、山の木切りに働きに来た。よろしくお願いします」

って、もっかいじっと見たっけ、ごんげんさまの鼻のあたり、濡れてて、たつつん、たつつんって、なにか落ちてるんだと、下見た床のとこ見たっけ、びしょびしょで、

「ありゃごんげんさまったら、なんたら鼻水でいっぺんにな」

って、それからまた、風と共にいい匂いこがぶーんとしてきて、

「ありゃ、ごんげんさまなんだかいいい匂いっこがするなあ」

指突っ込んでペロンてなめてみたっけ、じいさまの大好きな酒っこだったんだと、

「いやびっくりした、ごんげんさまったら、ありがてえ鼻水、なんたら、ぼつつん、ぼつつん、いやあ、ありがてえ、ありがてえ、ばあさまの作ってくれた弁当の蓋っこ、ここさ置くからす、これさいっぺありがてえ水っこお願いします。俺さ一生懸命働いてくる」

じいさまそれから木、ダガーン、ダガーン、ダガーンって、一生懸命切って働いたんだと、
「いやあ疲れてきた」

と思って、真上見たっけ、お天道様が、頭の上さいるし、

「おうおうそろそろ昼飯だ。ばあさまの作ってくれたうんめえ弁当食べるか」

「ごんげんさま、ごんげんさま、ありがてえ水っこも、たまったべか、おうおうおう、いっぺ溜まった、ごちそうになる」

ってごっごっごっごっごっ、

「いやあうめうめ、こんとなありがてえ水っこはね、ごんげんさま、まだ働くからす、また一生懸命働いて、今日はこれで終わりにするからす、また明日もお願いします」

って、さあ、たきぎ集めて

「よっこらっしょ」

って、背負って、さ、ありがてえ水っこをまた、ゴックンゴックンゴックンゴックンって飲んだっけ、足がフラフラフラ、フラフラってヨロヨロしながら山下りて、

「ばあさまばあさま待たせたな、今帰った」

「なんたらじいさまおせがったな、疲れたべ、お湯っこでも飲んで休んでじえ」

「んだなあ」

って言ったっけ、ヨロヨロヨロズサーン

「なんたらおめさん、顔も真っ赤っかだし、足もヨロヨロして、なんだか酒っこの匂いする、山さいったのにどこさ飲んできた？どこで飲んできたってや？ああ、俺さ隠れてどこかで、飲んできたな、なんたら」

「違う違う、実はな山さ登ったっけよ、ありがてえ水っこがな、ごんげんさまの鼻から、タツツーンタツツーンって落ちててよ、それを飲んだっけな、ありがてえことに、いやあほんとにこんたなかっこになったども、うめかった」

「なんたら、嘘っこついて」

「そんたに疑うんだったらおめえも明日行くべ」

って、さあ次の日、朝早く起きて、ばさま（※2）のごっと連れて、山さ登って行ったんだと。さあばさま、

「なんたら嘘ついて、ほんとになんたら」

と思って一生懸命登っていったっけ、ほんとにじさま（※3）の言う通り、なんだかおどろっこが見えるんだと、おどろっこの中じっと見たっけ、ほんとにじさまの言った通り、立派な顔したごんげんさまが胡坐かいてお座りになってて、

「いやいやいやほんとだほんとだ、それから鼻からタツツーン、タツツーンって、ああこのことかあ、どれどれ、ああうめなあ、ほんとに酒っこだ、こんたなことはねえんだ、いやあじさまの言う通りだ」

「んだべんだべ、だからよお、俺また働いてくるからよ、おめえここで番してろ、わかったか？」

「うん」

さあばさま、それからごんげんさまの立派な顔、じっと見て、タツツーン、タツツーンってのじっと見ていたんだと、なんたらな、なんぼここさ、蓋っこ置いたってまだたまらねえ、これはいつになったら酒っこいっぺえになるかわからねえから、辺りじろじろってみて、棒切れ拾って、ごんげんさまの鼻さ、グッと、突っ込んだんだと、そしたっけごんげんさまびっくりして、びっくりして、山の中さ逃げてしまったんだと。

棒切れ持ったままばさま、立ってたところさ、じさま帰ってきて、なんたら、何したってや
っておどうの中見たっけ、

「ありやあたまげたたまげたごんげんさまいねえ、ばさまなにした？」

「んだってじさま、なんぼすありがてえ水っこだって言ったって、タツツーン、タツツ
ンっていっこ溜まらねえからさ、おらいらいらいらいらしてさ、棒切れ鼻の中さ突っ込ん
だのさ、なんたら申し訳ねえ、悪いことしたなあ」

さあ急いでうちさ帰っても、じさまはまあ一晩寝られなかったんだと、いやあ、ごんげん
さま悪かった悪かった、おれのばあさまなんたら悪いことした。

よし、次の日の朝、まだ暗いうちに起きて、一生懸命山さ登った、

「ごんげんさま、大丈夫だったかー？ごんげんさまー」。

ああ、おどうっこの中見たっけ、ごんげんさま、立派な顔して胡坐かいて座っておられた
んだと。

「ああ、ごんげんさま、申し訳なかった、おらのばさまほんとに悪いことした、ごんげん
さま、よかった、さ、今日も俺働くからす、まだこのわっぱ弁当の蓋っこさす、ありがて
え、水っこお願いします」

それからというもの、じさま、一生懸命働いてす、毎日、ごんげんさまのありがてえ酒っ
こ、鼻水、いっぺえもらって、一生懸命働いたということです。

どんどはれ、おしまいです。

※1 おどうっこ：お堂

※2 ばさま：ばあさま

※3 じさま：じいさま